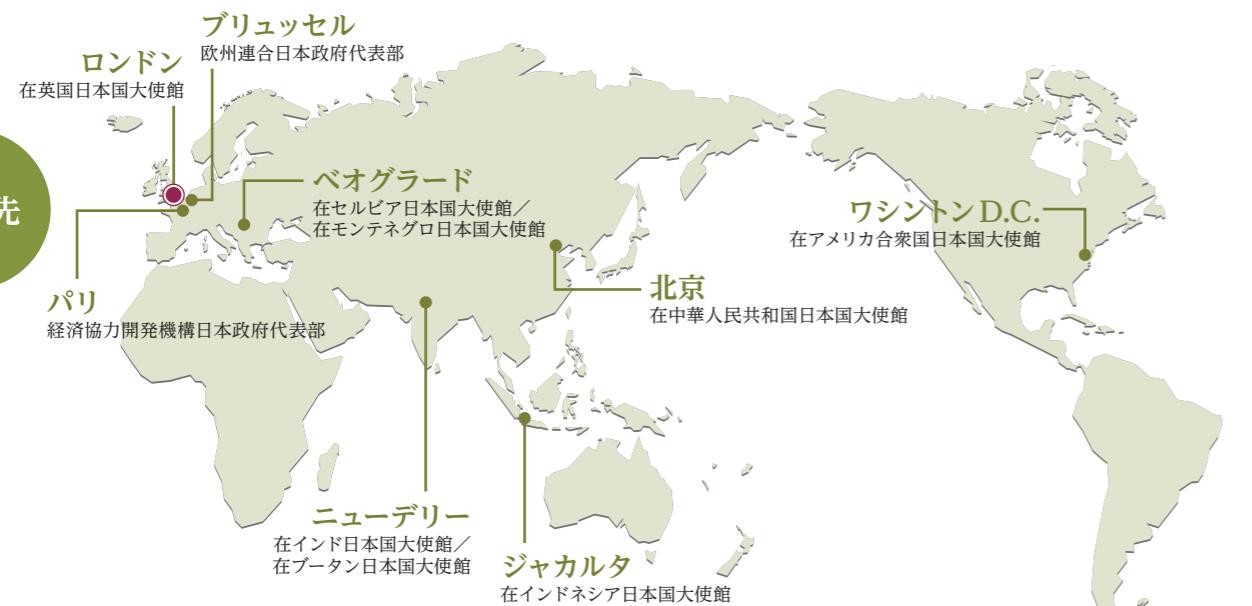


派遣先



海外で活躍する職員と業務紹介

From 在英國日本大使館／国際派遣

**幅広い経済分野から挑む
国際経済の最前線で日英関係強化を目指して**

池田 大起 Ikeda Daiki

在英國日本大使館 (平成23年4月入局)

国際派遣の業務について

私は現在、公取委から外務省に出向し、ロンドンにある在英國日本大使館で勤務しています。英国には、公取委のカウンターパートである競争・市場庁(CMA)があり、デジタル市場やAIといった最先端分野で世界をリードする競争政策・消費者保護政策を展開しています。私は、CMAがどのようにルールを設計し運用しているかを日々調査するとともに、公取委とCMAの橋渡し役として、意見交換や協力関係の促進を支えています。

また、在外公館では、競争政策だけでなく、日英間の経済全体に関わる幅広い分野を担当することになりますので、国際経済の最前線に身を置きながら、両国の関係強化に貢献することを目指しています。

国際ネットワークが支える競争政策の使命

今、AI等の最先端技術をめぐって、世界中で、「いかに投資を促し、自国の成長につなげるか」が大きなテーマとなっています。投資を後押しするためには、予測可能で安定した規制環境が不可欠であり、競争ルールもその重要な一部です。

各国が異なる制度を持つ中で、日本として最適な制度を考えるために、国際的な議論の動向を速く正確に把握することが欠かせません。その最前線に立つ在外公館では、現地でこそ得られる「生の情報」や「人とのつながり」が大きな糧となります。競争政策に関する国際的ネットワークの中で日本の立場を発信し、世界の動きと日本を結ぶ——その使命に大きなやりがいを感じています。

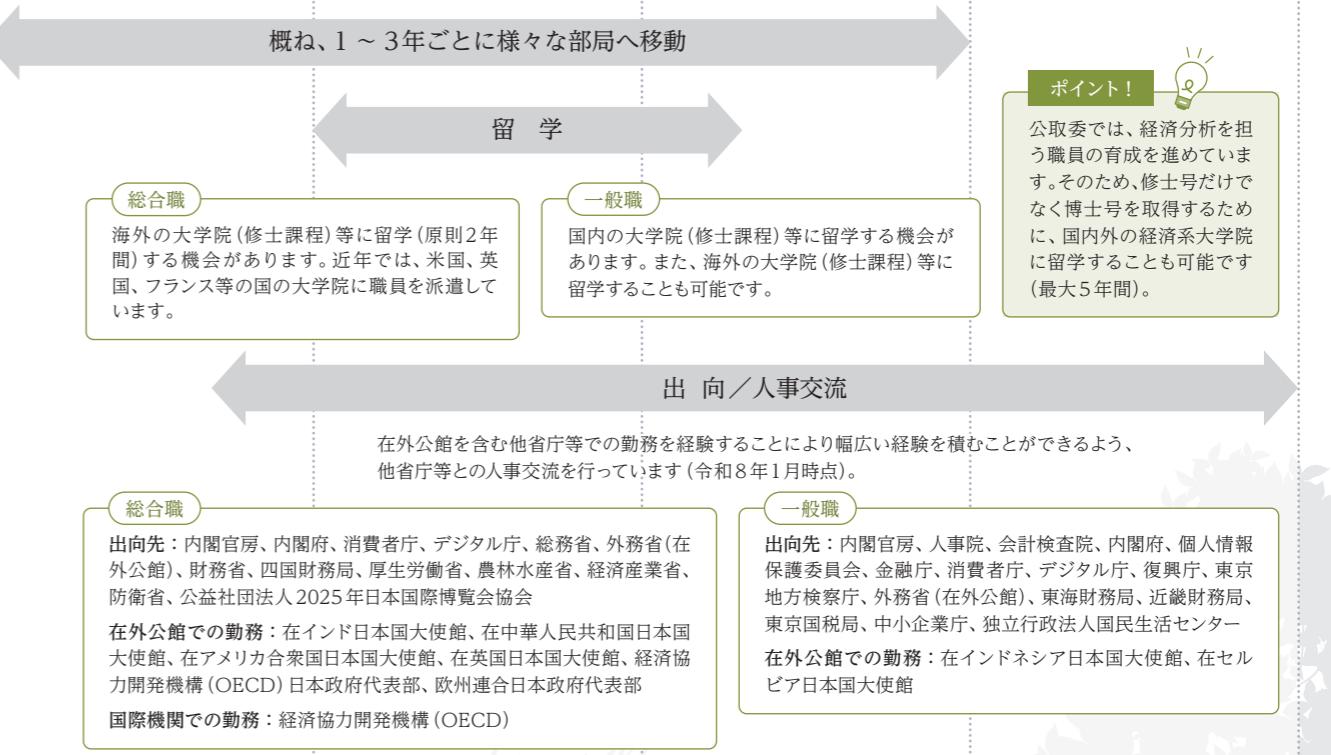
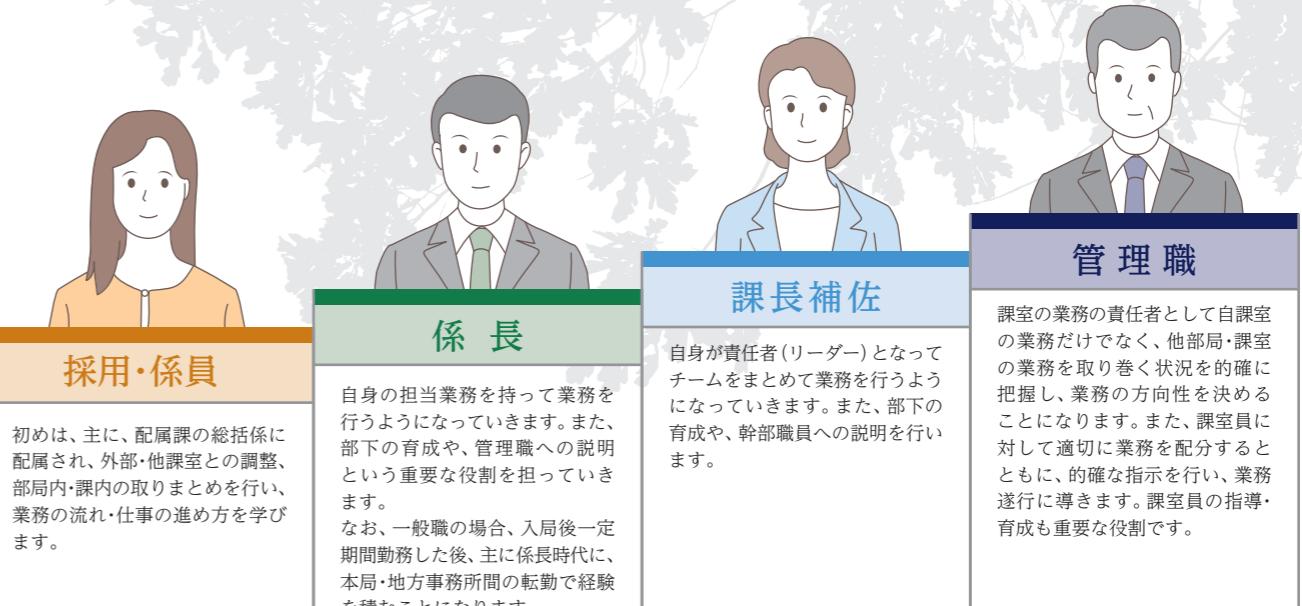
ロンドンでの過ごし方

ロンドンは多様な国籍の人々が集う活気あふれる街で、ビジネスも文化も刺激に満ちています。街を歩けば、日常的に異なる言語や価値観に触れ、国際都市ならではのエネルギーを感じます。休日は家族とともに、緑豊かな郊外を散歩したり、プレミアリーグの試合を観戦したりと、異文化の中で働く緊張感と、家族と過ごす穏やかな時間の両方を楽しみながら充実した日々を送っています。



採用後のキャリアステップ

採用後、公取委の重要業務である事件審査業務を含め、約1~3年ごとに様々な部局を異動し、様々な経験を積むことになります(なお、総合職の場合、採用されてしばらくは、1年ごとの異動が多い傾向にあります)。このほか、本局・地方事務所間の転勤、海外大使館を含む他省庁での勤務、国内外の大学院等へ留学する機会も用意されています。このような様々な経験を積む中で、視野を広げるとともに、高い専門性を身に付けることを目指しています。



※掲載順は内閣官房が公表している国行政機関の組織図を参考にしています。



総合職・一般職

一般職で採用となった場合、入局後一定期間勤務した後で、本局(東京)採用者の場合は地方事務所・支所のいずれかに、地方事務所・支所採用の場合は本局に約2年間の転勤があります。
 総合職で採用となった場合には地方転勤の機会はありません。